NEWS

★ アートリースで子どもたちの絵 30 点が新オフィスに! 「シティグループ・サービス・ジャパン株式会社」

シティグループ・サービス・ジャパン(株)は、この5月より、天王洲にあるオフィスの20階フロアーに、子どもたちの絵を30点展示してくださっています。広いフロアのあちこちに、世界中の子どもたちによって描かれた色鮮やかな絵を目にすることが出来ます。日常の激務をこなされているインターナショナルな社員の方々の、つかのまの癒しにもなっているそうです。

これは、子供地球基金が実施する「アートリースプログラム」に対してのご協力で、所蔵する世界中の子どもたちのアートを一定期間リースしていただくことで、ご寄付を頂戴しています。この「アートリースプログラム」には、シティグループ・サービス・ジャパン㈱の他にも、企業や個人、カフェなどでも協力いただいています。



アートリースプログラムとは?

子供地球基金が所蔵する世界中の子どもたちが描いた絵画の中から、額装をした作品を一定期間お貸し出しし、より広く一般の皆さまと共有してまいります。このユニークなプログラムは、一般の法人企業、研究所、学校、病院、政府機関、飲食店、各店舗など、又は個人の方々にも幅広くご参加頂けます。

1. まずはお好みの作品をお選びください

リース作品リストをお貸し出しいたしますので、その中からお選びください 現物をご覧になりたい場合には、子供地球基金恵比寿ギャラリーまでお運びください

2. 寄付 ※リースはすべて寄付としての扱いになります

サイズ小 3,000円/月 程度~

サイズ大 5,000円/月 程度~ 送料は別途ご負担くださいませ

3. リース期間: 6ヶ月~



展覧会



箱根彫刻の森美術館

●北海道・札幌市

6月9日(土)~6月11日(月) モエレ沼公園 ガラスのピラミッド HIDAMARI「大地と光の芸術祭」にて

●京都・左京区

4月 16日(月)〜4月 22日(日) ル・カフェ 338 KYOTO2007 実行委員会



●東京・千代田区

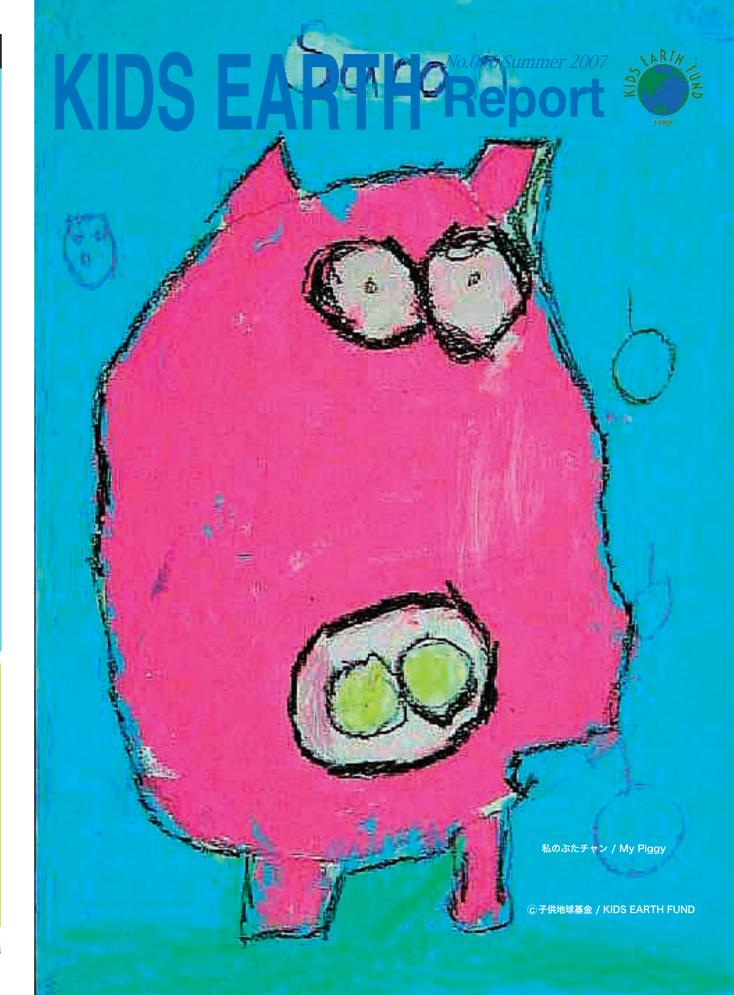
3月10日(土) ~4月12日(木) 丸の内・仲通り 「キッズ・アート・ストリート」

●東京・千代田区

6月10日(日) 三井住友銀行主催コンサート会場 日本大学カザルスホールにて

●神奈川県・足柄下郡

5月26日(土)~5月27日(日) 箱根彫刻の森美術館 「THE NORTH FACE エデュランスラン OSJ 箱根 50K」 にて





特集

中国・北京出稼ぎ労働 者の子どもたち支援

3月20日~23日、子供地球基金代表鳥居、副代表ロレイン・レインボールド並びに事務局永田は、中国・北京で非常に貧しい中で暮らす子どもたちへの支援活動を実施してまいりました。北京1500万人の人口のうち150万の出稼ぎ者がいるとされていますが、そういった出稼ぎに来ている人々の子弟で、学校に通うことができない子どもたちや孤児となった子どもたちへ少しでも子どもらしい時間を送りたいということで、アートワークショップ開催ならびに寄贈活動を行いました。

私たちが訪れた地域では、高校、大学など行ける子 どもはほとんどおらず、小学校課程、うまくいって も中学校課程で終わり、すぐ社会に出て働く事を余 儀なくされています。

500人が通う施設の長の方は、お金も人脈もなく何もないところから、こういった出稼ぎ者の師弟のために学校を5校立ち上げたとの話でした。学校といっても基礎科目の国語、社会、理科、算数などが中心で、音楽やアートといったことはほとんどされていない状況です。

アートワークショップは、自分の背丈を越える 2 メートルの大きなキャンパスを何枚も使って描きました。子どもたちの描く筆のタッチは、内に抱えていたエネルギーに比例して、スピードは速くダイナミックでした。アートワークショップ中の子どもたちは、きらきらと目を輝かせ、頻は高揚し、無邪気にお互いの筆を交換し、夢中になって描き、そして頭のてっぺんから足の先まで絵の具だらけの自分たちをみて笑いあっていました。子どもたちが心の奥を吐き出すように、圧倒的なパワーで描いた時間となりました。





最初に訪れたパウロレベルは、貧困などの理由から 家庭で育てられず孤児となった子どもなどが寝泊ま りをしている施設です。金銭的に非常に厳しい運営 状態を強いられています。



ここで描かれた子どもたちの絵は、世界中の子ども たちの絵とつなげ大きな一枚のタベストリーにし、 2008 年北京オリンピックイヤーに展示予定です。

〈アートワークショップ実施〉

海清学校(民工小学校)74名/光愛学校(民工小学校) 140名/パウロレベル(児童養護施設)100名 (物資寄贈)

海清学校(民工小学校)/ 光愛学校(民工小学校) / パウロレベル(児童養護施設)/ Philip Hayden Children's Village(孤児院)

なお今回の寄贈活動にあたっては、多くの企業などから物資のご提供をいただきました。ここに心より御礼申し上げます。



300 キロを超える運搬物資

アートワークショップに参加した学生のメッセージ

「子どもたちか色を塗ったジーンズは宝物です。 帰国後 の今もそれをはくたび、 あの楽しい時間と子どもたちの 笑顔を思い出します。」 東京大学文学部4年 坂本敬史

「子どもたちの描いた絵や笑顔をみていると、"もっとこの子達のために力になりたい"という思いが溢れてきました。そういう意味で、このアートワークショップは、子どもたちと一緒の時間を過ごせ、さらにそれを世界に発信できる素晴らしいものだと思いました。」 菊地仰

「子どもたちが皆可愛く、一緒に時間を過ごせて幸せでした。あとは中国語が話せていたらと思いました。」 慶応大学 4年 能澤諒子

「話を聞いたり写真をみるのと、実際の子どもたちと触れ合うのは感じる思いや自分に与える影響力が全然違うと思います。皆さんもぜひ参加してみてください。」東京大学3年 岩野圭佑

「苦しい思いをしている中国の子どもたちに愛を注いでこよう!と思って参加したのですが、彼らの笑顔と素直さに心うたれ、逆に私が元気をもらうことができました。」国際基督教大学2年 鎌田紗織

Ä

KIDS EARTH HOME Project

5月9日から16日まで、代表鳥居晴美がクロアチ アへ赴き、第1号ホームの運営状況の確認と子ど もたちとのアートワークショップを実施しました。

第1号 キッズ・アース・ホーム クロアチア 「第1号ホームの現状とこれから」

現在、現地 NGO の Suncokret の協力のもと、トプスコ市とグボーズド市という隣接する 2 つの市で、地元に根付いた活動を行っています。戦後 10 年以上になるが、未だに、グボーズド市民の約 60 ~70%は失業中であり、それによりアルコールやドラッグに依存し、家庭内暴力を振るう親、子どもの教育に無関心な親が多く存在します。実際に戦争を体験してはいなくとも、二次的被害者である子どもたちが、心のトラウマを無くし、これからの社会を変えていく希望を持てる環境をつくっていかなければならないと思い、活動を続けています。



■ なぜ戦後 10 年以上経っても復興しないのか?

⇒ 戦前の社会主義の時代から、変化した今でも、 戦後自分の力で生活していく知識も能力もない。新 しいことに挑戦する精神力も経済力もない。政府が 新ビジネスにお金を貸しても、大半の人が失敗しロ ーンすら払えていない状態。

また素晴らしいリーダーとなる人材がいない。ロー ルモデルが存在しないため、希望も持てない。

● 子どもの問題点

⇒ 夢を持てない大人の影響で、子どもたちも夢も 持てず小さい頃から酒やタバコに手を出している。

● アートワークショップの効果

- ⇒ 町に映画館やレンタルビデオ、美術館などの娯楽施設がないため、キッズ・アース・ホームで絵を描く時間が、子どもたち唯一の楽しみとなっている。
- ***上記記事は現地で鳥居が行ったリサーチにもとづいています**





美しい地球を残そう! Painting & Planting Project 3本の植樹を行い、その後子どもたちと木絵を描きました。この国も温暖化の影響で、積雪もなく降雨量も少なかったそうです。

KIDS EARTH CAR Project

慈恵医大 ~春の遠足~

4月中旬、病院の外は春の気配がたっぷり。でも、ピクニックに行くことができない子どもたちは、病院内でピクニック気分を味わいました。今回は、趣向を変えて、プレ・ワークショップでボランティアの皆さんが作ったお弁当キットを子どもたちに事前に届け、子どもたちはそれを携えてワークショップに参加しました。春をテーマにした絵を描き、最後はお弁当キットと出来上がった作品と一緒に記念撮影!!大興奮した子どもの中には、出来上がった作品の上で、楽しそうにスキップする子もいたほどです。参加した皆さんにとって、楽しいピクニックの時間となりました。



春をイメージして描いているのは虫とお花



ワーイ、本当にピクニックに来たみたい!

箱根彫刻の森美術館 ~テントに絵を描こう~

アウトドアブランド・THE NORTH FACE が主催する「THE NORTH FACE エンデュランスラン OSJ 箱根 50K」が、箱根にて開催されました。ゴール地点となった箱根・彫刻の森美術館では、子供地球基金とのコラボレーションイベントとしてアートワークショップが行われました。

今回、キャンバスとなったのは「テント」。ワークショップでは、ひっきりなしに子どもたちが訪れ、日頃題材にできない大きなテントに絵が描けるとあり、みんな大はしゃぎ。色鮮やかな絵が描かれたテントに、参加した子どもたちは大満足の様子を見せていました。また、子供地球基金に寄せられた世界中の子どもたちの絵も館内展示され、参加した子どもたちが世界の様子を知るきっかけにもなった一日となりました。





NEW MEMBERS

新規にご入会いただいた方々です

(個人会員) 樋上 摂子 様 安田 明子 様

(団体会員) (株東京ベイ舞浜ホテル (株アイ・エス・エム

(2007年3月1日~2007年5月31日現在・五十音順)



コラム

DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol. 17 白浜 利司子 子供地球基金顧問

地球温暖化、環境破壊が急速に進行している今、私たちの地球は一体どうなってしまうのでしょう?あまりにも問題が大きすぎて、何から手をつけてよいか分からず、いい 知れぬ恐怖の中で私たちは毎日生きています。問題は実感が伴ってないという事。ゆで上がったカエルの話を知っていますか?もしカエルを熱湯の中に放り込んだら熱くてす ぐ飛び出します。でも、水からジンワリ温度が上がっていくと、カエルはじっと動かず、ゆだってしまうという話です。私たちはゆだったカエルになってしまうのでしょうか? この事は私たちにとっても深刻な問題ですが、さらに深刻なのは、40 年後の地球で生きなければならない子どもたち。私たちは子どもたちにきれいな地球、美しい自然を残してあげられるのでしょうか?自分 1 人の力の小ささを思うと無力感に襲われますが、それでも何も行動を起こさないよりはいい。

私はファッションデザイナーです。2008 年春夏コレクションのテーマは LOVE PLANET。テーマの大きさに潰されそうになるけれど、ハッピーにメッセージ出来たら …。ファションショーでは子どもの絵をコラージュしたプリントドレスも登場します。 <地球と子どもたちの明るい未来 > に希望を託して。売り上げの一部は勿論 KIDS EARTH FUND に。とりわけ始まったばかりの Painting & Planting プロジェクトへ寄付したいと思います。それは植樹をして自然や地球の絵を描き子どもたちに地球教育をする素晴らしいプロジェクト。 私たちも出来るコトから 1 つずつ。 かけがえのない地球と子どもたちの為に。 地球は使い捨てではありません。 代替はないのです。

(* DEAR KIDS, DEAR THE EARTH は子供地球基金理事・顧問によるリレー式コラムです)